

経営効率化目標の取組みについて

弊社は、平成26年から平成28年までの3年間を対象期間とした経営効率化目標を設定し、その達成に向け鋭意取り組んでまいりました。今般、その取組み結果を次のとおりご報告させていただきます。

引き続き、お客さまサービスの向上及び信頼性向上に全力を挙げて取り組んでいく所存ですので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 生産性の維持・向上

目標) 生産性の維持・向上に努め、社員一人当たりの販売量を引き上げます。

結果) 新規需要の獲得に努めましたが、発電用途でのガス販売量の減少などにより、社員一人当たりの販売量は平成25年の4,670千 m^3 /年、平成26年の4,710千 m^3 /年に対し、平成27年は4,571千 m^3 /年となりました。

次年度以降も、全面自由化を控えたガス小売事業分野において、ガス販売を中心にサービス内容の充実化を図り、より強力かつ効率的な営業体制を作り上げることによって需要の維持・拡大を図ります。

2. ガス事業基盤の強化

目標) 新規のお客さまに対応する本支管・供給管の敷設など導管網の拡充や既存の導管網に対する改修工事の推進など、平成26年度から平成28年度の累計設備投資額を44億円として計画しており、将来の需要増にも対応した一層の安定供給体制と保安の確保を実現するためのガス事業基盤の強化を進めます。

これらの設備投資の実施にあたっては、工期や工法、仕様の見直し等のコストダウンに従来よりも一層強化・継続して取り組んでいくことで、効率的な設備投資を進めてまいります。

結果) 計画的な経年ガス管の改修及び非安全型ガス機器の周知・取替促進に取り組みました。また、工法改善等の効率化に努め、効果的な投資を行ったことにより、平成27年は設備投資額は約15億円となり、平成26年、平成27年の2年間累計で31億円となりました。

3. 営業費用の増加抑制

目標) 今後も保安の確保とサービス向上等のための費用の増加が見込まれますが、経営全般にわたる合理化・効率化をすすめコスト改善に努めることにより、ガスの総販売量1 m^3 当りの営業費用の増加を抑制します。

結果) 平成27年は、修繕費等の費用増があったものの、資材購入方法の見直し等に取り組んだ結果、平成25年の7.58円、平成26年の7.61円に対し、平成27年は7.90円となりました。次年度以降もコストダウンを徹底するとともに、積極的な需要開発を進め、1 m^3 当りの営業費用の抑制に努めます。

4. 環境への対応

目標) 環境性に優れた天然ガスの普及拡大と、燃料電池等の高効率・省エネルギー型ガス機器の普及促進に取り組み、地球環境負荷への低減に努めます。

結果) 環境負荷に優れたエネルギーである天然ガスの普及拡大については、ガス販売量が平成25年時点の919百万 m^3 /年から896百万 m^3 /年へと23百万 m^3 /年(0.3%)減少したものの、高効率・省エネ型ガス機器の普及促進については、平成27年はエネファームを64台設置し普及促進に努めました。次年度以降も天然ガスの普及促進を推進するとともに、高効率機器の普及拡大に努め、環境負荷の低減に取り組めます。

以上

※ガス販売量は、すべて39MJ/ m^3 換算で表示しております。